



図書館員のオススメ

「はかばへいく むすめ」

にへいたもつ／文
川端理絵／絵



ブルッと震える怖い日本の民話の紙芝居です。お金持ちの長者の娘「おはつ」の婿を探すことになりましたが、集まった若者はみんな逃げ出してしまいます。勇気のある「ゆうきち」は墓場へ行く「おはつ」の後をつけますが…。

～ おはなし会 ～

図書館ボランティア「もみじ」さんによるおはなし会は、当日まで何を見せてくれるかわかりません。紙芝居だったり絵本だったり。

いつも楽しい30分にしてくれています。ぜひ、小さなお子さんと一緒に、春休み中には小学生のお友だちも、カウンター横「絵本の部屋」に遊びにきてください。

<毎月第1・3水曜日 10時30分～11時>

■ 4月の予定：4日（水）・18日（水）

～ おはなしどんどん ～

おはなしどんどんは、おはなし会ともまた少し違い、来てくれた方がお話を選びます。

自分の好きな絵本や、読みたかった絵本、読んでみたいけど漢字がある絵本、それに紙芝居でもOKです！そのリクエストにお応えして、図書館職員が読ませていただきます。こちら絵本の部屋で行っていますので、遊びにきてください。

<毎月第2・4土曜日
10時～11時、14時～15時>

■ 4月の予定：14日（土）・28日（土）

私の好きな本

「超光速ニュートリノと タイムマシン」

竹内 薫／著

“光より速い物質が存在する！”全世界を驚かせたこのニュース。「超光速ニュートリノ？」「それがどうすごいの？」という人に、超光速の真偽からタイムマシンの可能性まで、「へ～、なるほどね！」にしてくれます。（K・Oさん）



▼ 新 刊 案 内 ▲

一般教養書

下り坂では後ろ向きに／丘沢静也
超（スーパー）小学生／太田あや
引頭佐知さんのだしとり教室／引頭佐知
猫語の教科書／野澤延行

一般文芸書

幻想即興曲／西澤保彦
あなたの本／菅田哲也
気分上々／森 絵都
残念な日々／ディミトリ・フェルフルスト

文庫・新書

赤穂バイパス線の死角（C・NOVELS）／西村京太郎
死ぬことを学ぶ（新潮新書）／福田和也
作家の放課後（新潮文庫）

／「yom yom」編集部

銀の森のパット（角川文庫）／モンゴメリ

絵本・児童書

超訳種の起源／チャールズ・ダーウィン
はるかなるアフガニスタン／アンドリュー・クレメンツ
あしたもね／武鹿悦子
ふたごのもうふ／ヘウォン・ユン

■ この他にも新刊を用意しています。ぜひご来館ください。



春のはかない命

～雪解けと共に現れる妖精たち～

暖 かな日差しが降り注ぐ4月、雪解け水が集まり、とうとうと川から湖に流れ込みます。

2軒のホテルの間を流れる湖畔河と湖に流れ込む一番大きなヤンベツ川は、春が来たのを喜んでいるかのようにせせらぎも軽やかで、水しぶきも躍っています。そして、山全体の雪解けは普段では見かけないような所にも水の流れを作ります。

川の流れのすぐ脇はいち早く地面が顔を出し、そこにはフキノトウの蕾がちょこんと腰を下ろしています。じきに開花。しかし、まだまだ寒い日が戻ってくる季節ですから雪が降ることもしばしば、せっかく開いた花が再び雪の下なんてことも。

河畔林のヤナギの雄花もこれから開花だというのに雪を被って一旦休止。また暖かくなるのを待つしかありません。4月中は雪化粧とわずかな春の香りが目まぐるしく入れ替わる季節です。

湖

の大半がまだ氷に閉ざされている5月上旬。森のあちこちで地面が現れます。

森の中は春特有の「土」の香りが漂い、それは同時に森の植物たちの目覚めを表し、中旬ごろには湖周辺や森の中、白樺峠は徐々に花の色に包まれていきます。白樺峠は、冬は風が非常に強く降った雪は吹き飛ばされ積雪が少ない。そのため笹は膝丈くらいまでしかない所もあり、そこに咲いているのが「シヨウジョウバカマ」です。

高さはくるぶしほどで淡い紫色。笹の下に隠れがちでよく見ないと見過ごしてしまいそうなくらい控えめな花です



シヨウジョウバカマ

が、ぜひ白樺峠に車を停めて探してみてください。白樺峠から然別湖へ下る途中には「エゾムササキツツシ」の鮮やかな紅紫の花が咲いています。然別湖畔にも多くあり、氷が全て溶けるこの時期は力一杯に乗って湖上から岸の花を見るのもいいでしょう。

5月下旬ともなれば、赤や白、黄色に青とさまざまな色の花が森に彩りを加えます。が、その多くは足元に咲く小さな花です。

初

夏の太陽照りつける6月になると木々は一斉に葉を広げ、背の高い草たちがぐんぐん伸びてきます。

新緑に森が包まれる前のわずかな時間に咲く花たちを「スプリング・エフェメラル」と呼ぶことがあります。エフェメラルとは「はかない」「短命な」という意味があり、スプリング・エフェメラルは「春の妖精」ともいわれるように、可憐で美しいのも特徴です。また虫の少ないこの時期に、効率よく受粉ができるように虫の注目を集めるためと考えられています。

健気に見えるスプリング・

エフェメラルですが、生き残っていくためにたくましい一面もあります。ところどころ残る雪を踏み進んで東雲湖に行くと、ガレ場に咲いているのが「ガンコウラン」。高さが10cmほどで、およそコケくらいにしか見えないガンコウランですが常緑の小低木。これまた小さい紅い花は見逃ししやすいです。



ガンコウラン

厳

しく長い冬の間、雪の下でじっと堪え忍んできた花たちは、束の間の春に一杯咲いています。春の薫り漂い春の色が散りばめられた森を歩けば、冬の間縮こまっていた体もシャキーンと伸びるのではないのでしょうか。